

シリーズ編者代表 下山晴彦

シリーズ編者 金沢吉展・沢宮容子

現代の臨床心理学 [全5巻]

「臨床心理学は、心理学に基づいて心のケアを専門的に研究し、さまざまな困難を抱えながらも人々が幸せに生きることを支援する専門活動である。」「臨床心理学を基盤とする心理専門職は、多職種協働のメンタルケア・チームでリーダーシップをとる立場となっている。」「本シリーズは、臨床現場において役立つ心理専門職の知識と技能を、現代臨床心理学の観点から体系的に解説した、日本で唯一のテキストである。心理職、そして心理職を目指す学生は、本テキストシリーズを通して、臨床心理学を基盤とする心理職の専門性を順序だてて学ぶことができる。多くの心理職が、本シリーズで示される臨床心理学の専門性に基づいて我が国のメンタルケアの発展に寄与することを祈念している。」

(下山晴彦「刊行のことば」より)

第1巻 臨床心理学 専門職の基盤———松見淳子+原田隆之 編 [続刊]

第2巻 臨床心理アセスメント———松田 修+滝沢 龍 編 ISBN978-4-13-015172-6

第3巻 臨床心理介入法———熊野宏昭+下山晴彦 編 ISBN978-4-13-015173-3

第4巻 臨床心理研究法———岩壁 茂+杉浦義典 編 ISBN978-4-13-015174-0

第5巻 臨床心理学と心の健康———金沢吉展+沢宮容子 編 [続刊]

各巻 A5 判・並製カバー装・横組・320~390 頁・定価(本体価格 3600 円~4000 円+税)



東京大学出版会 〒153-0041 東京都目黒区駒場 4-5-29 <http://www.utp.or.jp/>

第1巻 臨床心理学 専門職の基盤

——松見淳子(関西学院大学名誉教授)+

原田隆之(筑波大学人間学類教授)編 [2022年冬刊行予定]

I 臨床心理学の現在—1章 現代の臨床心理学を支えるモデル(松見淳子)/2章 エビデンス・ベイスト・プラクティス(原田隆之) **II エビデンス・ベイスト・プラクティスの展開**—1章 エビデンス・ベイスト・プラクティスの技能と展開(原田隆之)/2章 社会に開かれたエビデンス・ベイスト・プラクティス(原田隆之・松見淳子) **III部 臨床心理学の発展と課題**—1章 臨床心理学の成立と発展(下山晴彦)/2章 日本の臨床心理学の発展と課題(下山晴彦)/3章 臨床心理学の知識・技法の体系(下山晴彦) **IV 職業的専門性の基盤**—1章 法律と制度(金沢吉展)/2章 倫理(慶野遥香)/3章 専門職連携(川島義高) **V 教育と訓練の方法**—1章 心理専門職のコンピテンシー(岩壁茂)/2章 事例検討会(ケースカンファレンス)(下山晴彦)/3章 スーパービジョン(平木典子)/4章 臨床実習と現場研修(野中舞子) **VI 心理専門職カリキュラム**—1章 米国の臨床心理学の教育カリキュラム(大谷彰)/2章 英国の臨床心理学の教育カリキュラム(丹野義彦)/3章 公認心理師と臨床心理学の課題(下山晴彦)

第2巻 臨床心理アセスメント

——松田 修(上智大学総合人間科学部教授)+

滝沢 龍(東京大学大学院教育学研究科准教授)編

2022年9月刊・316頁・定価(本体価格3600円+税)

I 生物—心理—社会モデルに基づくアセスメント—1章 生物—心理—社会モデルの意義(滝沢龍・松田修)/2章 アセスメントの目的と方法(松田修・滝沢龍) **II 問題別のアセスメント**—1章 ディメンショナルな視点からのアセスメント(滝沢龍・松田修)/2章 抑うつ(滝沢龍)/3章 対人関係問題(吉村聡・藤野弘)/4章 心的外傷(トラウマ)(大河原美以)/5章 衝動性(暴力・自殺)(菊池安希子・曾嶋崇弘)/6章 認知機能の減退(松田修)/7章 知的能力の発達遅滞(橋本創一) **III 領域別のテストバッテリー**—1章 テストバッテリーの考え方と組み方(松田修・滝沢龍)/2章 保健医療分野におけるテストバッテリー(津川律子・成田有里)/3章 福祉分野におけるテストバッテリー(川畑隆)/4章 教育分野におけるテストバッテリー(飯田順子)/5章 司法・犯罪分野におけるテストバッテリー(田高誠)/6章 産業・労働分野におけるテストバッテリー(種市康太郎) **IV 結果のフィードバックと報告**—1章 フィードバックと報告の考え方と方法(松田修・滝沢龍)/2章 ライフステージに即したフィードバック(松本真理子)/3章 重症患者やターミナルケアにおけるフィードバック(吉田沙蘭)/4章 他職への報告書(高橋香織)

第3巻 臨床心理介入法

——熊野宏昭(早稲田大学人間科学学術院教授)+

下山晴彦(東京大学大学院教育学研究科教授)編

2021年12月刊行、360頁、定価(本体価格4200円)

I エビデンスを現場に生かすために—1章 エビデンスに支持された介入法とプロトコル適用の留意点(熊野宏昭)/2章 ケース・フォーミュレーションの作成と活用(下山晴彦) **II 介入の方法とプロセス**—1章 初回面接(下山晴彦)/2章 動機づけ面接(林潤一郎)/3章 家族への介入プロセス(吉川悟)/4章 コミュニティへの介入プロセス(高岡昂太)/5章 危機場面への介入プロセス(窪田由紀) **III ケースマネジメント**—1章 ケースマネジメントの理論と方法(下山晴彦)/2章 認知行動療法の技法とケースマネジメント

(鈴木伸一)/3章 家族支援を含むケースマネジメント(境泉洋)/4章 包括的地域生活支援とケースマネジメント(山崎修道) **IV チーム・アプローチ(1)総論と保健医療分野**—1章 チームワークの理論と方法(下山晴彦)/2章 保健医療分野におけるチーム・アプローチ 1)循環器医療(市倉加奈子・鈴木伸一)、2)糖尿病・肥満症治療(五十嵐友里)、3)緩和医療/サイコ・オンコロジー(岩満優美)、4)サイコ・ネフロロジー(石橋由孝・高吉洋平)/3章 リハビリテーションにおけるチーム・アプローチ(緑川 晶) **V チーム・アプローチ(2)その他の領域**—1章 福祉分野におけるチーム・アプローチ(川畑隆)/2章 教育分野におけるチーム・アプローチ(石川悦子)/3章 司法・犯罪分野におけるチーム・アプローチ(嶋田洋徳・野村和孝)/4章 産業・労働分野におけるチーム・アプローチ(坂井一史)

第4巻 臨床心理研究法

——岩壁 茂(立命館大学総合心理学部教授)+

杉浦義典(広島大学大学院人間社会科学部研究科准教授)編

2022年9月刊、392頁、定価(本体4000円+税)

I 研究の意義—1章 なぜ臨床に研究が、研究が臨床に必要か——プロセス研究の経験に基づいた研究コンピテンシー(岩壁茂)/2章 研究の必要性(杉浦義典)/3章 治療関係研究(岩壁茂)/4章 認知科学との交流からみた精神病理(杉浦義典) **II 代表的な研究法**—1章 混合研究法(抱井尚子)/2章 心理療法プロセス研究(岩壁茂)/3章アウトカム研究とメタ分析(竹林由武)/4章 プログラム評価研究(安田節之)/5章 神経科学研究(国里愛彦) **III 各種の臨床的問題に対する研究の進め方**—1章 診断横断アプローチ(伊藤正哉・藤里紘子・加藤典子)/2章 うつへの多面的アプローチ(高垣耕企)/3章 子どもの臨床的問題(大対香奈子)/4章 発達障害(今野義孝)/5章 統合失調症(石垣琢磨) **IV 各分野での研究の進め方**—1章 保健・医療領域における意思決定支援研究(吉田沙蘭)/2章 福祉領域におけるデータ構築と人工知能を用いた虐待対応の研究(高岡昂太)/3章 教育領域における心理教育の効果研究(新井雅)/4章 司法・犯罪領域における再犯リスク研究(大江由香)/5章 産業・労働領域のストレス研究(島津明人)

第5巻 臨床心理学と心の健康

——金沢吉展(明治学院大学心理学部教授)+

沢宮容子(筑波大学人間学群教授)編 [2022年冬刊行予定]

I 臨床心理学の社会的役割—1章 心理職の職業的発達と社会とのかかわり(金沢吉展)/2章 心理職の社会的役割(沢宮容子) **II 心の健康増進と予防**—1章 心の健康教育と健康心理学(小玉正博)/2章 虐待の予防と対策(加藤尚子)/3章 いじめの予防と対策(戸田有一)/4章 依存症の予防と対策(原田隆之)/5章 自殺の予防と対策(川野健治)/6章 うつ病のサービスギャップ対策(下山晴彦)/7章 生活習慣病の予防と対策(山崎勝之) **III コミュニティへのアプローチ**—1章 コミュニティへの介入と関係者への援助(窪田由紀)/2章 発達障害の社会的支援(高柳伸哉・明翫光宜・浜田恵・辻井正次)/3章 引きこもりの社会的支援(境泉洋)/4章 災害被災者の社会的支援(大沼麻実)/5章 犯罪被害者の社会的支援(齋藤梓)/6章 高齢者の社会的支援(大川一郎) **IV部 文化と心理支援**—1章 グローバル化(大西晶子)/2章 マインドフルネス(越川房子)/3章 日本文化と心理療法:内観療法・森田療法(石山一舟)